

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 寺本 亮洞
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

平成31(2019)年2月1日 金曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



広報天台

平成31年延暦寺年賀式を執り行う

1月8日 比叡山延暦寺



年賀式は延暦寺会館において午前11時より行われ、最初に森川宏映天台座主親下を導師に法楽が執り行われ、年が明けた平成31年1月8日、比叡山延暦寺において延暦寺年賀式が催され、宗内諸大徳、山門出入方、政財界など多数の方が参列し共々に新しき年の門出を祝った。

年賀式は延暦寺会館において午前11時より行われ、最初に森川宏映天台座主親下を導師に法楽が執り行われ

「平和で住みよい地球でありますように」

森川座主親下が新年にあたってのお言葉

た。

法楽奉修の後、森川座主親下より新年にあたってのお言葉があった。冒頭、平昌オリンピック・パラリンピックなど昨年のスポーツ分野やノーベル医学・生理学賞の受賞など日本人の活躍に勇気づけられたと述べられた。また、延暦寺総本堂根本中堂の改修事業の進捗状況に触れられ、着々と進められている旨を明らかにされた。

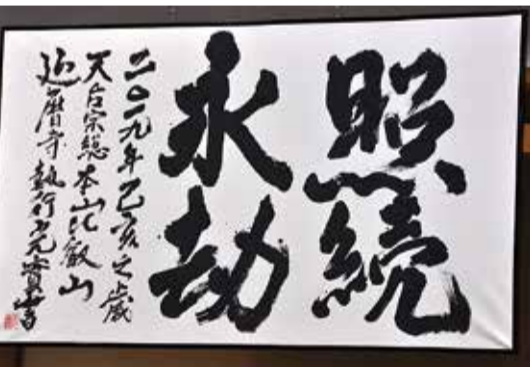
さらに、二年後の伝教大師1200年大遠忌を控え、宗祖の御教え、御功績を伝える「魅力交流事業」を進めることなどに触れられた。

そして、昨年襲った大阪北部や北海道胆振東部地震、西日本豪雨、台風被害など自然災害にも言及され、本年が平和で住みよい地球であるように祈念しますとお言葉で結

ばれた。(写真)

杜多道雄天台宗務総長も「科学技術の発展により便利な社会となったが、それに振り回され、元来備わっていた人間の能力が失われつつあるのではないかと、宗祖の示された分ち合いや共生の教え、一隅を照らす精神を弘めていくことが我々の責務と想う」と新年にあたっての挨拶を行った。

また、毎年発表される「比叡山から発信する言葉」として『照統永劫』という言葉が小堀光實延暦寺執行より披露された。小堀執行は「宗祖伝教大師の御教え、御心は『不滅の法燈』のように脈々と世を照らし続けている。そのともしびを幾千代までも永く照らし続けていこう」という言葉です」と意味を紹介、その実践を呼びかけた。



『比叡山から発信する言葉』

毎年年初に、その年の心構えを示す「比叡山から発信する言葉」が発表される。前大阪商工会議所会頭で京阪電気鉄道最高顧問だった故佐藤茂雄氏が発案。2013年から続けられている。

極微

アフリカに驚くべき能力を持った蚊がいる。「ネムリユスリカ」という。この蚊の幼虫は、乾期が来て生存環境である水たまりがなくなっても、干からびたミ

イラ状態で休眠する。やがて何カ月かして雨が降ると、吸水して再び動き始める。成虫となつてからは子孫を残して数日で死んでしまうが、ミイラ状態の幼虫のままたと何年も休眠し続けるそうだ。▼まるでフリーズドライしたインスタント味噌汁にお湯をかけて戻すみたいだ。実際、アフリカの熱くなった水たまりでも蘇生が可能なので、まさにインスタント味噌汁の生き物版だ。▼現在、世界の研究者が競い合つてその仕組みを解明しようとしているそうだ。実用化に至ったあかつきには、食品はもちろん、花などの植物や人間の細胞、血液などを乾燥したままで保存が可能になるといふ。実際にできるとすれば、あのドラえもんのかつねツツトから出てくる夢のような道具そのままである。▼複雑な構造を持つ人間に比べて単純な生命体である蚊であつても、水をかけると体が丸ごと「生き返る」とすれば、人間もいつかは…と、思つてしまふ。もし実現すれば、人間の生命観も大きく変わつてしまふだろう。生物学的、医学的にはあまりに短絡的ともいえる夢想ではあるにせよ。しかし、「不老不死」という想いはいつの世も消えぬ永遠の望みではある。